



① のどかな道路(地域資源 かつ課題)

5班の探索範囲で最北東の位置。長い道路の横に広がる田園と山村が美しくその点で地域資源といえる。この道路を車で走るのも、ゆっくり徒歩で移動するのも、季節を感じて素敵だと考える。空も良く見えるため、晴ればよりコントラストの映える景色となるだろう。しかし休日にも関わらず人通りや車通りが少なかったという点では課題といえる。(鈴菜)

都農町は第1、第二次産業が盛んでご覧の通り、田畑が広い土地を使って行われている。緑に覆われていて、綺麗である。(渚)



② 稲作部会の立て札(地域資源)

地域の稲作部会による今年度の早期水稲情報がかつた立て札である。この立て札は今回通ったエリアではここにしかなかった。地域のコミュニティのつながりを感じる事ができ、地域資源と評価した。(志帆)

地域住民が共同して稲作管理を行っていることがわかる。看板は道路の傍にありとても目立つ印象だ。(美沙希)



③ 電線に刺さった木(問題)

電線に木が刺さっている箇所があり危険。木を見るも人工的に切られた跡が見え、生えている木に電線が入ったというわけにはないことだけわかった。写真には写っていないが隣にも木が刺さっていた。(志帆)

電線に枝が引っ掛かるのは、漏電や火災の原因になることがある。また、そこにとまった虫や鳥が感電する危険性がある。(敦)



④ 森林伐採(問題)

この場所から東のほうを見ると、写真のように山肌が見えてしまっている箇所がある。これにより、せつかくの景観が少し損なわれてしまっているようにも感じたため問題であると考えた。遠目からだと植林している様子も確認できなかったが、この地にも緑が増えるのと良いと考える。(鈴菜)

災害によって山肌が見えている可能性も考えられる。土砂崩れによって人的被害も出る恐れがあるので対策を講じる必要があると考える(渚)



⑤ 農業用水路(地域資源)

新しい農業用水路だと考えられる。ジャバジャバと水の流れる音が響き、涼しげな雰囲気だった。この用水路の周辺には田んぼがあり、ここの水が使われて、米ができていくのだろうと、命に思いをさせることが可能。ゆったりとした時間や、のどかな景色が楽しめたため地域資源とした。(鈴菜)

田んぼの脇にある水路は勢いよく流れていた。水路はとても清潔であり、十分に管理されている。傍にはガードレールがあり転落防止を行っている。(美沙希)



⑥ 危険な用水路(問題)

少し大きめの用水路の一部。しかし、周辺には植物が生い茂っており、柵も設置されている。写真にあるように、「危ないから入るな」と看板に記載されているが色あせており、この文字が読めなく若い幼い子供なら通れしまいそうな隙間もあり、危険だと感じたため問題とした。(鈴菜)

最初、注意書きの看板とは気づかなかった。このように注意書きが消えているところが数か所あるので修復が必要である。(渚)

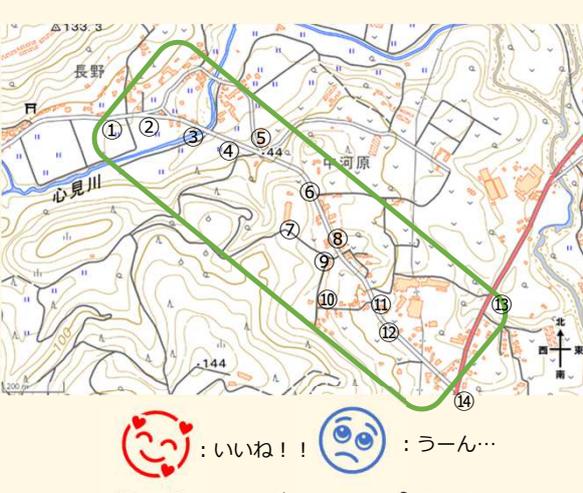
都農町地域資源マップ ~Aグループ 5班~



⑦ グリーンバイオマスファクトリー(地域資源 かつ問題)

5班の探索エリアの中央部にあるグリーンバイオマスファクトリーは小さな山の上にあり、奥の鉄骨のタワーからは黒い煙が絶えず発生していた。遠目から見ても存在感があり、近づくと丸太が数多く見受けられた。写真にあるように機材も動いていた。(鈴菜)

発電するための施設でありその点では地域資源であると評価した。しかしここでは名前の通り木材を使用しているため森林伐採などにつながることや火を使っているため課題とした。小高い丘の上に建てており敷地内では発電に使用するための加工前の丸太や加工後の木材などが見られた。写真には写っていないが遠くからわかるカラフルな工場のようなものがあった。(志帆)




⑧ 伸び放題の草(問題)

歩道横の植物が歩道のところまで伸びてきている。植物を押し除ける、もしくは身を屈めなくては道を通ることはできない。この周辺にはいくつか同じ状況になっているところがあり、自転車で行く際、非常に危険だと感じたため問題とした。管理が必要だと考える。(鈴菜)

国道10号沿いの歩道では大きいトラックやスピードを出した自動車などの交通量がとても多い中障害物があり、自転車の小学校や保育所の周辺が通行するには道幅も狭いので注意して通行すべき地帯である。(美沙希)



⑩ 集豊鑑定所(地域資源)

個人による四柱推命や手相の鑑定所である。珍しさにより地域資源であると評価した。表には写真のように立派な立て札があった。しかし中にはできず営業時間などについての看板もなかったため営業しているかについては不明である。(志帆)

個人経営と思われる手相などの鑑定所があった。看板が大きく宣伝されていたが、営業しているかどうかは判断できなかった。(敦)

作成：Aグループ(5班)



⑫ 古い看板(問題)

道路のすぐそばにたてられている古い看板だ。蛇が出そうなくらい、周辺に多くの植物が生い茂っている。掲示物は剥がれかけ色あせているため、内容がわからない状態だった。不気味な印象をうけるため、撤去するか新しくするかしたほうが良いと考える。そのため問題と評した。(鈴菜)

看板の先には一本道があったが、植物が生い茂っていたり、木が倒れていたりなど、あまりよく整備されていない様子だった(敦)



⑬ ゴミ収集所(地域資源 かつ問題)

この地域のごみ収集場の1つ。木材やネット等でしっかりとスペースが作られている。しかし、周辺に少しカンやプラスチックのごみが放置されていたため問題と評した。これさえ改善されれば、周辺に植えられた植物も相まってより良いごみ収集場になると考えたため地域資源ともした。(鈴菜)

大きく、目立つごみ集積所があった。ごみの種類や、捨てる日まで細かく指定され、記載された看板があった。(敦)



⑭ レストラン都農(地域資源)

範囲から少しはずれてしまったが、写真のこのレストランで今回昼食をとった。ホール担当の元氣な奥様によると、「元氣になった」といわれるのが一番うれしいそうだ。そんなお店で食べたチキン南蛮は絶品で、元氣もチャージされた。食事処であるため地域資源とした。(鈴菜)

店員さんのUさんは都農に来て40年とのこと。都農の良いところ、悪いところを聞いた。Uさんは人のつながりがどこよりも強いところが良さであるとおっしゃり、悪いところはない、とおっしゃっていた。また、都農には若い人も多く、サッカーチームや都農のまちづくりをしてくれる人も沢山いて、とてもいい街だとおっしゃっていた。(渚)



⑨ ポイ捨て(課題)

道路の端の写真。様々な植物が生い茂る中、なぜか土の中に葉やビンのごみが埋まっていた。それも1つではなく、複数見受けられた。土の中に埋まるほど長い時間放置されていた、ということならこのようなことがないよう対策を講じる必要があると課題と評した。(鈴菜)

古くから残る石積み周辺の山道に入る道路沿いに廃棄物が放置されたままである土がある。環境や景観を汚す原因となり改善を行わなければならない。(美沙希)



⑩ 風景(地域資源)

山を上り、しばらく道を歩いていくと遠くに海の水平線が見えるスポットがあった。住宅・田畑・森・海と、田舎に流れるゆったりとした時間や雰囲気を感じることができ、地域資源と評した。西側の海だったため、もしかすると夕方は日の入りが見られたかもしれない。(鈴菜)

ふと振り返ってみると、こんな景色が…心が穏やかになります。このあたりに住んでいる人は毎日、海が見ることができるとうらやましいです(渚)

今回は大学に入学してから初めての外部実習であった。当日は小雨が降っていた影響もあるのか、地元住人を見かけることが少なかったが、それでも地域の資源や魅力に少しは触れられたのではないかと考える。また、天候が晴れていたり、時間帯を変えたりすれば新たな発見があるかもしれない。時間を見つけて再び都農町へ赴きたい。(鈴菜)

この地域は水稲栽培が盛んな場所で、緑が多い場所であり自然豊かなのんびりと暮らすことのできる場所であった。改善点として今後新しいものを建設するのは良いことであるが、それをどのように維持管理していくかにも目を向けることが重要であると実感した。実際に足を運ぶことで地域の雰囲気や景色を詳しく味わうことができた。(美沙希)

今まで都農町に関しては、県民でありながらもじっくり見て回ったことやワイナリーなどの有名な場所に行ったことがなく、ただ宮崎へ行くときに通過するだけだったが今回じっくりとみてまわったことで今まで知らなかった一面を知ることができた。今回調査をしてわかったことは都農町は自然と共存している地域であるということである。自然がほつぽつと残されているのではなく自然の中に人が生きているように感じられた。ソーラーパネルが景観を壊してしまっているようにも若干思えたが、ソーラーパネルも自然の恵みを活かした暮らしをする中でさらに自然の恵みを活かそうとした結果ああったのではないかと考えた。今まで都農町を訪れたことのない人はぜひ訪れるべきであると自信をもって言える。(志帆)

都農町に実際に行き、田舎ならではの魅力であったり、都農町だけにしかないであろう魅力について沢山知ることができた。都農町の人みなさんいい人でまた訪れたいと思う。今回は限られた区域の探検だったので、行くときは都農全体を回り様々な魅力を感じていきたい。(渚)

都農町は、緑がたくさんあり、きれいな景色を見られる場所がたくさんあった。レストランつこの店員さんとお話を聞いたが、活気にあふれる方で、お話を聞いていてこちらまで元氣になった。また、写真に撮ってじっくり考察することで新たに発見できるものもあり、都農町の魅力の奥深さを感じた。(敦)

